

令和5年度 第1回 小牧市母子保健推進協議会 議事録

日 時	令和5年6月30日（金） 13時30分～15時
場 所	小牧市保健センター 2階 大会議室
出席者	<p>【委員】（名簿順）</p> <p>林 芳樹 小牧市医師会小児科医 三輪 茂美 小牧市医師会産婦人科医 竹内 友康 小牧市歯科医師会小児歯科医師 鈴木 久代 小牧市学校教育課指導主事 山崎 和子 小牧市北里中学校養護教諭 藤原 美里 愛知県立小牧高等学校（定時制）養護教諭 森島 厚子 小牧市幼児・教育保育課指導保育士 余語 美紀 小牧市子育て世代包括支援センター副所長 川崎 由美子 小牧市子育て世代包括支援センター家庭児童相談員 戸田 輝子 春日井保健所健康支援課長 小川 喜世子 小牧市こども政策課長 上園 幸子 臨床心理士 井上 静 主任児童委員 真野 梨恵 小牧市民病院助産師</p> <p>【事務局】</p> <p>野口 弘美 保健センター所長 西村 泰洋 保健センター所長補佐 三枝 尚子 保健センター母子保健係長 長谷川 真弓 保健センター母子保健係保健師 安立 麻希子 保健センター母子保健係保健師 赤星 歩香 保健センター母子保健係保健師 鈴木 千晴 保健センター母子保健係保健師</p>
欠席者	0名
傍聴者	0名
配付資料	資料1・1-2 資料2・参考資料1・2・3 資料3・参考資料4 資料4 資料5 参考資料5

1. 開会

(1) あいさつ

- ・野口所長あいさつ
- ・林会長あいさつ

(2) 新任委員の紹介

- ・新任委員、自己紹介

2. 報告事項

(1) 生と性のカリキュラム 令和4年度実績報告について

- ・事務局より、資料1-1・2を用いて説明。
- ・委員からの質問、意見なし。

(2) 「生と性に関するアンケート」結果報告について

- ・事務局より、資料2・参考資料1・2・3を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

鈴木委員) 今後も5年に一度のアンケートの実施なのか。

事務局 保健センター) 以前は3年間連続してアンケートを実施していたが、結果が大幅に変わるということではなかったため、5年毎のアンケート実施へ変更となった。子どもを取り巻く環境も変化しつつあるため、今後のアンケート実施時期については引き続き検討していきたい。

アンケート実施時期について、委員の皆様にご意見を伺いたい。

山崎委員) アンケート回答方法を変更したことでのメリット、デメリットはあるか。

事務局 保健センター) 昨年度は書面形式のアンケートからタブレットを利用したアンケート回答に変更した。タブレットで回答をしたことで、自由記載欄に詳細な悩みの訴え、長文で回答する者が増えた印象。現代の子どもたちは、文字で書くことよりもスマホ、タブレットが日常的で慣れているので、タブレットの方が回答しやすかったのではないか。

反対に、回答フォームのシステム上、「悩みの有無」について、「悩みが有り」と回答した者のみ、詳細な悩みの選択ができるようになる。以前は、書面回答であったため、次の質問がわかり、自分の悩みに気づくことがあったと考える。今回は、次の質問に対しての見通しがつかなかったことが原因なのか、悩みについて「無し」と回答した者の割合が大幅に増加した。

山崎委員) 集計は簡易になったか。

事務局 保健センター) 集計は簡易になった。

鈴木委員) 担任の立場だと、タブレットの回答は生徒が何を書いたのかがわからない。書面だと、生徒の回答が担任として把握しやすい。タブレットの回答で、様々な回答が得られたことはメリット。アンケートについては、5年待たずに実施することも良い。

上園委員) データを集めることが目的であれば毎年実施でもよい。悩みの質は毎年変わるため、毎年実施してもよい。タブレットの回答は、詳細な意見が拾える。

(3) 生と性のカリキュラム＝地域版＝親子で学ぶ性教育について

- ・事務局より、資料3・参考資料4を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

山崎委員) YouTubeで周知するのか。

事務局 保健センター) 講座の様子を YouTube 撮影し、講座に参加できない親子がいつでも、どこでも学ぶ機会をもつことができるように、周知していく。

(4) 親子健康手帳の改訂について

- ・事務局より、資料4を用いて説明。
- ・委員からの質問、意見なし。

3. 意見交換

(1) 今の親子を取り巻く現状から考える今後必要な支援について

- ・事務局より、資料5を用いて説明。
- ・全委員より、それぞれの役割や、そこから感じる親子の現状について発表して頂く。

鈴木委員) 学校教育課、相談事について学校で対応できるものは学校に伝えていく。また、必要な関係機関に繋げている。

山崎委員) 保護者の支援が必要なケースが多い。子の問題の背景には、親が抱えている問題が隠れている。保護者の安定を図る支援が増加。親の支援が必要となる職務の重要性。

藤原委員) 保護者と行政が繋がっていても、学校側は把握できない。連携できる手立てはないか。

外国籍生徒が多い。言葉の支援だけでも課題がある。市の言葉の支援員と連絡をとることもある。

森島委員) 4月より0~2歳児の保育料無償化が開始。申請者、就園者が増加。早く入れないと損という風潮がある。家庭・地域にいる親子の支援を考えていきたい。園見学や土日に地域の座談会が出来るとよい。

保育園では配慮が必要な子が増加。必要な関係機関と連携出来るとよい。

余語委員) 親子が児童館に来て、悩みを話す。寄り添いながら支援をしている。

7月より一時預かりの利用料金が値下げした。4月生まれより一時預かり無料クーポンを配布予定。

家庭で保育をしている人の支援が必要。家庭保育のメリットを感じられるように。

小川委員) 子どもに関わる施策を集約する課。子育てガイドブックを作成。

それぞれの課がホームページを作成している等、必要な情報を拾いにくいと声あり。今年度、必要な人が必要な情報をひろえるように、プロジェクトチームを立ち上げ、検討していく。

児童クラブ、利用人数増加。待機児童ゼロ。令和3年度より保護者の負担金の見直し実施。

ひとり親家庭、生活困窮者に対して支援金給付。

少子化対策として出会い・結婚支援室を設立。結婚支援に関するアンケートを実施中。

川崎委員) 家庭相談、問題を抱えている家庭の相談。子育ては連鎖している。親も虐待され育った。一般家庭の子育てを知らないまま親になる。その子どもも、そのまま家庭を持つ。

親に指導しても1回や2回では変わらない。親ではなく、今の小中高生の子たちが、楽しい子育て、当たり前の子育てを学べる機会があるとよい。

真野委員) 若年妊娠があり、家庭も複雑でサポートもない。不妊治療をはじめ高齢妊娠が増加。祖父母も高齢であり、サポートできない。外国籍の妊婦も増え、日本語が話せないままに退院し、その後の育児が心配になる。そのため、入院中に問題点を抽出し、

家庭に帰った時に問題が起きないように地域に繋げる。支援が途切れないようにする。産後ケア、ショートステイ、アウトリーチをしているが、件数はどうなのか知りたい。
事務局 保健センター）令和3年度、令和4年度を比較すると、令和4年度利用者は増加。

井上委員）月1回地域の見回りパトロールをしている。駅や図書館周辺を見回るが、図書館近くの階段下に中学生が集まっている。家庭で居場所があるのか心配。

上園委員）子どもの体調不良時の対応として、病児保育を周知していくと良い。

小学校以降の相談先を知らない保護者がいる。相談先の周知をしていくと良い。

不登校、発達障がいの子が増加。別室登校をしている子がいる。小牧市は、中学校では、別室が充実している。

不登校の子の母は誰にも相談できないと思っているが、同じような境遇の母とは繋がりたいと思っている。

竹内委員）小中学校の給食後の歯磨きが令和4年度0%。小牧市は県内でも最下位。歯を磨くという習慣をつけることが大切。

三輪委員）親に介入していくことは難しい。子への教育勧めるとよい。

望まぬ妊娠、性感染症、早い子だと小学校高学年でもいる。

自分や相手を大切にすることを伝える。

戸田委員）子の育つ環境の変化。情報は受け身。子ども同士が公園や広場で集団になって遊ぶことは少なく、一方、YouTubeなどのSNSの利用、ゲームインターネットの遊びが増え、偏った体験が普通になっている。挫折や葛藤に弱い子が大人になる。ひきこもり自殺者増加。

親も変化。環境的には豊かだが、自分が愛着や愛情を育む前にストレスを感じる。地域での子育てを精神面で支える取り組みが必要。

4. 情報提供

- ・若年がん患者の在宅療養費助成事業について説明（参考資料5）
- ・中学生がん教育について説明

※委員からの質問・意見なし

5. 閉会